



1998年度岩見沢校創立75周年記念行事を終えて

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学岩見沢分校 公開日: 2017-07-07 キーワード: 作成者: 奥野, 亮輔 メールアドレス: 所属:
URL	https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/9272

1998年度 岩見沢校創立75周年記念行事を終えて

1997年8月28日、日差しの強い夏休み、急いで会議場へと駆け込んだ。そこには主事・事務長などそうそうたるメンバー（各系から推薦されている教官は、奥野・梅津・清野・鈴木・金沢・百瀬）が談笑していた。「少し遅れたー」と照れながら着席すると、「これより、75周年記念行事の準備委員会を始めます」との主事のお言葉。続いて、60周年（昭和57年）以来15年ぶりであり、しかも記念誌については35周年から40年間発行していないこと、及び予算の方も後援会の積み立てとして約150万円、同窓会からの寄付金約50万円はどうか確約できるがこれでは足りないとの説明を事務長から聞かされた。

実行委員長を決める段になり、主事は先生方を睥睨しながら小生（奥野）のノートに目を留めた。「奥野さん、あんた委員長をやれ！」「何で、俺が？」「あんたのノートの表紙に`75周年記念行事計画、と書いてあるではないか。気構えがよいから、奥野さんやってくれ」。周りを眺めると、誰もノートを持ってきていない。よわい62になり忘却の激しさを実感している小生は、「75周年行事計画」と雑記ノートに書き残したのである。主事の眼力の恐ろしさと、我が身の不覚を嘆いたがすでに遅し。

行事の大枠は、記念式典・記念祝賀会・記念講演・記念誌発行・記念研究大会・記念品・植樹等の記念行事である。写真・他校の記念誌・案内状や招待状等の資料収集と日程・会計等に関しては、事務長以下補佐・庶務・経理・用度係長の手を煩わすことになった。教官と事務官は、政治家と高級官僚との関係を考えればよい。

さて、看板である教官の分掌は、次のように決まった。副委員長 梅津 薫（代議員）、研究授業関係 清野・金沢、記念誌関係 梅津・鈴木・百瀬、記念行事その他 全員とした。大学外部では、同窓会関係 葛西 明・森本 武・岡 嘉彦、後援会関係 鈴木淳夫、分校OB関係 渡部俊夫の各先生方になった。まずは、時間のかかる記念誌の資料集めから始めた。学長及び歴代主事への寄稿願ひ、各研究室の紹介と歴史の原稿依頼である。

この記念誌発行に当たって、非常に助かったものとして藤根先生の題字「飛翔」、鈴木先生の頌歌「創立75周年記念に寄せて」、清野先生の労作である「現職員・元職員卒業生名簿」、梅津先生の数々の絵である。3回の校正を経て完成したときは、あまりの嬉しさに放課後ビールの栓を抜いて乾杯したものだ。現在この記念誌は、小生の座右の書として家と学校の机の上に鎮座している。

疲れたり嫌なことがあるとこの本を取り、鶴の舞を彷彿させる「飛翔」を観入り、天空に羽ばたく「タンポポ」の花を眺めるのである。また、頌歌を愛読すると、我が分校の永遠を疑わない。ひととき、過ぎ去りし日々の思いに浸るのである。あの学生は、いま何処にいるのだろう。転勤なされたあの先生はどうしているだろう、と。そうです、このような時こそ、「現職員・元職員卒業生名簿」が威力を発揮する。

さて、記念品についての話に移ろう。「この物余りの世の中、安くてゴミにならない物は何だろう」「校舎全体が写ったテレホンカードはどうだろう」「今の人たち、携帯電話を持っているので使用しないのではないか？」という議論が出たが、他によい案が出なかったのでテレホンカードに決めた。

講演講師は、謝礼が安いことから意外に早く決まった。「知り合いを頼むしかない。顔の広い主事の仕事だ」「安くても来てくれるのは廣田（元我が校助教、阪大名誉教授）さんしかいないな。俺ちょっと電話してくる」と言うが早いか、そのまま自分の部屋から連絡をとり承諾を得た。我々に有能さを誇示するためか、はたまたせっかちか面目躍如たるものがある。

研究会は、清野・金沢先生の尽力により光稜中学校で成功裏のうちに終えた。また、記念式典・記念祝賀会・記念講演は、事務の人たちの多大な力添えを得て外来者にも喜ばれて終えることができた。ここに、紙面を借りて関係者の皆様に感謝申し上げます。 （文責 奥野 亮輔）